




# 地域防災拠点 横浜型Dig訓練

平成23年 消防局危機管理室



# はじめに

- ・この訓練は、室内で行う机上型の訓練です。
  - ・防災参与等の区役所職員が進行役です。
  - ・訓練の参加者は、運営委員会の方々を想定しています。
  - ・訓練の実施に際しては、各拠点の運営マニュアル、学校の平面図及び筆記用具を準備してください。
- 



# 訓練実施方法

◇ 震度6強の地震の発生からおよそ1日の間の対応です。

→拠点の開設準備→開設→避難者の受入れ  
→避難生活の開始

の流れをスライドで進行します。

◇ スライドを進めながら状況の変化に対応します。

◇ 設問に対して運営委員会で議論してください。

◇ 設問の解答は地域の実情により若干異なりますので、答えは1つとは限りません。





# 地域防災拠点の開設・運営 (基本編)

# 【地震の発生】

- ◇ 1月×日(金) 午後6時30分
- ◇ 相模トラフを震源とする地震が発生
- ◇ マグニチュード7.9、震度6強



# 午後 6:30

- 自宅にいと、地震が発生しました。
- 運営委員のあなたと家族は無事です。
- 自宅は、窓が割れて部屋に散乱していますが、建物は無事です。
- 各部屋では家具が倒れ、物品が散乱しています。
- 町内は停電しており、真っ暗です。
- ラジオのスイッチを入れると、相模湾近海を震源とする地震が発生し、横浜市は震度6強を観測したことを放送しています。

# 午後 6:40

- 自宅の外に出ると、砂埃が上がっており、近隣の古い木造家屋は、何棟も倒壊しています。
- いったん避難場所では、住民が集まり始めています。



写真提供:神戸市役所

## (設問1)

# 「このあとどのような行動をしますか？」

# 午後 6:50

- 防災拠点に行くと、教職員3人、運営委員長、運営委員の数人がいました。
- 集まった方々の地区では、皆同じように古い木造家屋が倒壊しているとのことでした。
- これらの状況と震度6強であることから、早急に防災拠点を開設することで意見が一致しました。

(設問2)

「防災拠点の開設決定に際して  
まずは、何をしますか？」



# 午後 7:15

- 体育館と防災備蓄庫には被害がありません。施設の点検が終了したので、避難者を受け入れる準備を始めることとしました。
- 停電と断水が発生し、トイレは便器は壊れておりませんが、水は流れない状況でした。

(設問3)

「避難者の受入準備は  
何をしますか？」

# 午後 8:00

- 多数の住民が避難に訪れたので、避難者カードを手渡して記入しています。



- 運営委員と避難者により体育館のスペースの区割りをすることとしました。

(設問4)「どのように区割りしますか？」



# 午後 8:30

- 避難者カードの集計により避難者数は300人で、全員体育館に受入が終了しました。
- デジタル移動無線機により区役所との通話は可能でした。



(設問5)

「今後の避難生活のために予想される事態や必要物品は何でしょう？」






## 「男女ニーズの違いへの配慮」

- 避難者には、乳児を抱える母親が5人います。



(設問6)

「授乳室・更衣室を  
どのように設置しますか？」

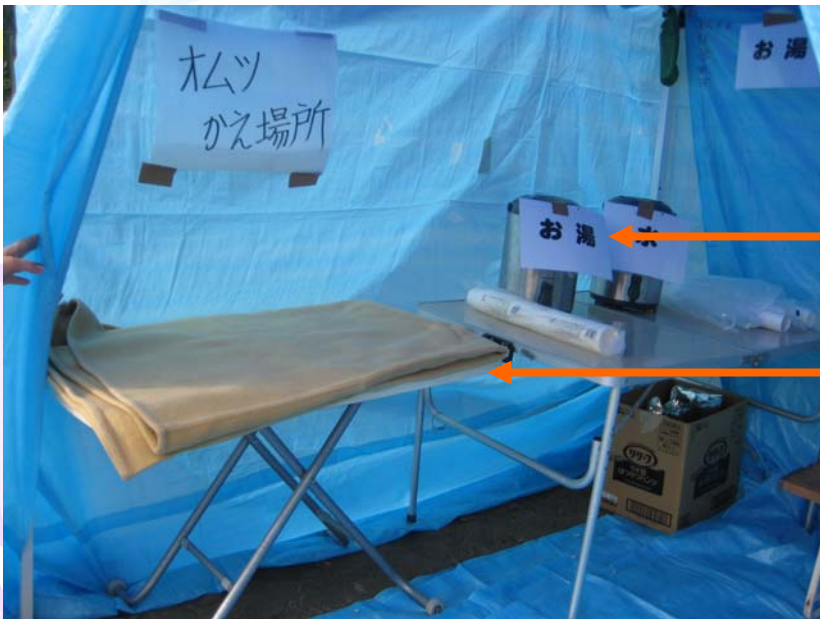


# 「授乳室・更衣室の例（拠点の実例）」



授乳用の椅子

備蓄品



お湯(ミルク用)

オムツ替え台

※全て学校にあるもので対応しています。



# 午後 10:30

- 避難者の過半数は、女性と高齢者です。  
学校の女性トイレは長蛇の列となっています。  
阪神・淡路大震災の教訓からも、トイレ対策が必要とされます。



(設問7)



「どのような対策をしますか？」

午後 11:50

- 首都圏近郊に勤務する住民が徒歩帰宅して地域に戻り始めました。
- 避難者の総数は、1,000人に達しました。
- 学校長・運営委員会で協議し、体育館は女性・高齢者を中心に約300人、軽度の負傷者を校舎の1階教室に約150人、他の住民約500人以上は2階以上の教室に割り振りました。



## 翌日 午前 0:30

- 区役所に毛布を1,000枚要請しましたが、道路被害の発生と車の渋滞により、配送の見込みが立たちません。気温は低下し、住民は自宅などから毛布や布団を持ち寄っています。



写真提供:神戸市役所





午前 5:30

- 配布した備蓄食料、水の飲食後のゴミが体育館や教室の隅に溜まり始めました。  
また、使用したトイレパックがトイレのゴミ箱から溢れ始めました。



(設問8)



「どのような対策をしますか？」

午後 14:00

- 防災拠点の避難者数が学校施設のキャパシティを超えました。避難者数の中には、余震や停電による不安感から避難してきている住民も多いと思われます。
- 運営委員会は、自宅が倒壊していない方々に対して帰宅を促しました。

午後 16:00

- 町内会の一部の商店主から、食材や飲料水などの提供がありましたので、炊き出しを始めることとしました。



避難者の中から食料・物資班の支援者を募り、温かい汁物を作って全員に提供しました。

## 午後 18:30 ~ 発災から24時間

- 運営委員会は、学校連絡調整者・市職員の直近動員者と協力して、周辺の被害状況を把握し、区役所に随時連絡を実施しています。
- 飲料・食糧・毛布など、備蓄物資の数量の把握のための、避難者で班を編成して、不足物資を区役所に連絡し、毛布などが徐々に届き始めました。
- 避難所は落ち着き始め、夜間に向けて避難者の中から巡回警備の班を編成し、避難所の安全を確保することとしました。

# まとめ

- この内容は、阪神淡路大震災や東日本大震災などの教訓から、各避難所で考えられる事項をまとめたものです。

避難所での運営を行うには、避難者（住民）の協力と地域住民の代表である運営委員会の方々のリードが無くては困難となります。

これらのことを、地域の皆さまにも理解されまよう、区役所と運営委員会が訓練等の機会に周知していくことが重要となります。

- 今後の避難所開設・運営訓練に反映していただくようお願いいたします。